



主 題 名

いっしょに活動するために

教 材 名

どんなことができるかな

人権学習の視点

個別的な視点「障害のある人の人権問題」

主題・教材について

最近では公共施設などを中心に点字ブロック（視覚障害者誘導用ブロック）や点字での表示が増えてきている。しかし、視覚に障害のある人とどのように接すればいいのかわからず、声をかけることに抵抗を持っている子どもも多いと思われる。視覚障害の疑似体験をし、それを補うための方法やいろいろな工夫を知り、目の見えにくい人と進んでかかわろうとする心情を育てたい。

また、京都府立盲学校の紹介を通して、同年代の児童の学校生活や活動の様子を知り、障害について正しく理解し、互いに協力して生きていこうとする心情を養いたい。

<2時間扱い>

ね ら い

目が見えにくいとはどういうことか、疑似体験をすることでその困難さや有効な工夫がどのようなものかわかり、進んでかかわろうとする心情を養う。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導 入	○点字ブロック（視覚障害者誘導用ブロック）や白杖などを見て、何であるかを考えさせる。	一斉	○P26～P27の写真を見て、考えたこと、知っていることを発表する。	○点字ブロックや白杖、点字などは、目の見えにくい人が移動したり情報を得たりする時に利用する大事なものであることを伝える。	資料 「どんなことができるかな」 P26～P27
展 示	見えにくくなる原因は？				
	○視覚障害の原因を知らせる。	一斉	○見えにくくなる原因を知る。	○交通事故や病気が原因で視覚障害者になることもあることを知らせ、自分のこととしてとらえられるようにする。また、見えにくさは人によってさまざまであることを知らせる。	
開 演	見えにくいって、どんなこと？				
	○見えにくいことを疑似体験させる。①（机上での作業：筆箱の中の鉛筆を長い順に右から並べるなど）	個別	○疑似体験①をする。	○机上にテキスト以外の物がない状態から始める。机上の作業でアイマスクを着用して活動することに慣れさせる（全盲体験）。	アイマスク (タオルなど)
	○疑似体験をした感想を発表させる。	一斉	○疑似体験をして気が付いたことや感じたことを発表する。	○どのように工夫すればうまくできたか、見えないことでどのような困難さがあったか考えさせる。	

目が見えにくい友達の通う学校のことや、実際の歩き方などについて知ろう				
展	○DVDを使って、京都府立盲学校の様子や、屋内歩行の基本的な姿勢や仕方を知らせる。	一斉	○DVDを見て、京都府立盲学校のことを知ったり、屋内歩行の仕方を知ったりする。	DVD 資料 P28 シナリオ手引き P32~P37
	○見えにくいことを疑似体験させる。②(移動)	ペア	○疑似体験②をする。	
開	○疑似体験をした感想を発表させる。	一斉	○言葉での誘導を受けてアイマスクを着けて移動する。 ○誘導した時、移動した時に気が付いたこと、感じたことを発表する。	アイマスク (タオルなど)
				○左右などの指示が的確でないと迷わせることになることなどを押さえる。 ○見えにくいことからくる困難さや、それを軽減させる工夫に気付かせる。
いっしょに活動するために…				
ま と め	○ちょっとした工夫でいっしょに活動できることを知らせる。	一斉	○ボールゲームや徒競走ではどのような工夫がされているかを考える。	資料 P29
	○目の見えにくい人といっしょに活動する時、どのようなことに気を付ければよいか理解させる。	一斉	○本時の学習の感想を交流する。	○進んでかかわろうとする前向きな考えを取り上げる。



評 価

目が見えにくいとはどういうことか、疑似体験をすることでその困難さや有効な工夫がどのようなものかが分かり、進んでかかわろうとする心情を養うことができたか。

